



まいづる

# 農業委員会だより

No.

67

令和2年11月

発行／舞鶴市農業委員会 舞鶴市字北吸1044 TEL 66-1023 FAX 62-9891



**橋** 日本で最古の橋は、大牟田市にあった“御木のさ小橋（みきのさをばし）”で、巨大な倒木による丸木橋とされ、人工の橋は326年に大阪市に“猪甘津橋（いかいつのはし）”が架けられたのが、最古とされている。

646年に宇治橋が、725年に山崎橋（大山崎町）が架かり、多くは僧侶が架けたことが知られている。（造成年はすべてウィキペディアを参照）

今年度より1期3年の農業委員、農地利用最適化推進委員が決まりました。農政と農業者の懸け橋になれるよう頑張って参ります。

写真の舞鶴クレインブリッジは、平成11年（1999年）に全長735m幅8.5mで、日本海側最大の斜張橋です。（嵯峨根委員）

## 主な内容

- 会長あいさつ ..... 2・3
- 委員の紹介 ..... 2・3
- 元気な農業者 ..... 4・5
- 朝来中ほ場整備 ..... 6
- 舞鶴の農家住宅 ..... 7
- 事務局紹介等 ..... 8

# ご挨拶

任期満了に伴う舞鶴市農業委員の改選により、7月20日の臨時総会において、会長に再任されました。皆様方のお力添えを頂き、精一杯任務を全うさせていただく所存です。

農業委員19名と農地利用最適化推進委員17名が力を併せ、舞鶴市の農業の諸課題に取り組むため、今回から市内を6つに区分した、地区別会議を取り入れられました。

地区毎に農地・農家の状況が異なるため、それぞれにあった最適化推進方針の下、農業委員と農地利用最適化推進委員の意思疎通や、共通認識を高めるなど計画的な取り組みを進めて行きたいと考えております。

舞鶴市の農業は中山間地域が多く、農業者の高齢化・後継者不足、更には有害鳥獣の被害等あり、耕作放棄地も増加している状況にあります。一方で新規に農業に取り組む、意欲ある若い人達も徐々にではありますが増えてきております。

## 舞鶴市農業委員・農地利用最適化推進委員の紹介

### 東地区

#### 舞鶴市農地利用最適化推進委員 (R2.7.20 ~ R5.7.19)

募集中



2区(西大浦): 安田 隆志



3区(朝来): 大石 昌轟



4区(志楽): 前田 隆文



5区(与保呂): 井本 正樹



6区(祖母谷・倉橋・新舞鶴等): 藤村 順一

1区(東大浦):

### 東地区

#### 舞鶴市農業委員 (R2.7.20 ~ R5.7.19)



福田 定一



佐藤 正之



松岡 秀雄



池田 三郎



二谷 敏子



尾上 亮介



会長: 谷口 和

### 西地区

#### 舞鶴市農地利用最適化推進委員 (R2.7.20 ~ R5.7.19)



7区(中舞鶴・余内): 瀬野 昇



8区(旧町・中筋): 費井 肇



9区(四所): 内藤 幸吉



10区(高野): 今安 七男也



11区(池内): 山田 昌弘

**この国の農と食を伝えます。**

全国農業新聞は農業者の公的代表機関である農業委員会系統組織が発行する週刊の農業総合専門誌です。

**全国農業新聞**  
NATIONAL AGRICULTURAL NEWS

週刊 金曜日発行  
月700円、年8,400円 (消費税込)

■購読のお申し込みは、農業委員会事務局へ  
TEL 0773-66-1023

■発行所 全国農業会議所

舞鶴の特産品であるお茶や万願寺甘とうの生産振興にも力を注いでいただきたいと思えますし、我々農業委員・推進委員にも心配事や相談相手として、気軽に声を掛けて頂きたいと思えます。

地域の法人組織や担い手に農地を集積しながら、「農地を守り・育てる」体制の構築も農業委員会の大切な役割と考えておりますので、農家の皆様のご理解・ご協力をお願い申し上げます、就任のご挨拶とさせていただきます。

(谷口会長)

加佐地区

舞鶴市農地利用最適化推進委員

(R2.7.20 ~ R5.7.19)



12区(岡田上): 淡路 辰己



13区(岡田中): 小嶋 盛治



14区(岡田下): 野間 久一



15区(八雲・由良川左岸): 千坂 守



16区(八雲・由良川右岸): 村上 伸次



17区(神崎): 武田 真一

加佐地区

舞鶴市農業委員

(R2.7.20 ~ R5.7.19)



岩崎 俊彰



副会長: 今田 寿孝



霜尾 共造



眞下 新一



植和田 英子



松本 圭司



谷口 一郎

西地区

舞鶴市農業委員

(R2.7.20 ~ R5.7.19)



嵯峨根 秀樹



櫻井 昭秀



安原 和彦



森川 勝文



辻 とよ子





引揚記念館より赤野の集落

根・里芋・さつま芋等を栽培されておられ、朝の4時半に卸売市場に出荷し、またスーパーマーケットの地場野菜コーナーや、その他直売所に



(赤野)  
上林

俊雄さん (87)  
睦子さん (83)  
ご夫妻

ユネスコ世界記憶遺産の引揚記念館より北へ3kmの赤野にお住いの、上林俊雄さん・睦子さんご夫妻を訪問させていただきました。

ご夫妻ともに定年までは、兼業で農業をされ、現在は専業で水稲50アールと畑作20アールを耕作しております。水稲はご主人がされ、JAに出荷、畑作は奥様が耕作をされています。栽培作物は、九条ネギ・大

も出荷されておられます。栽培のこだわりは、出来るだけ農業は使用しないように心がけておられるとの事です。



今年、西瓜・南瓜が、長梅雨後の日照りで全滅したとの事でした。「先祖より引き継いだ農地を荒らすわけにはいかず耕作しているが、農業がいつ迄出来るかわからないので、息子さんが農業を引き継いでくれ

るまでは頑張つてやりたい」と話されました。また、ご主人は、70歳の時に脳梗塞を患い、その後は奥様が毎日身体に良い料理をされているそうです。大変ご主人思いの奥様でした。

仕事以外にされている事を伺うと、ご主人は、魚釣りが趣味だったそうですが、今では、家でゆっくりと昼寝、そして同級生仲間の3夫婦で年1回の温泉旅行だそうです。

奥様の楽しみは、大浦会館で開催される月2回のカラオケ教室に行く事で、教室では、発表会があり、新しい曲の歌詞を覚えるのに一生懸命でボケ防止になるとの事でした。カラオケ教室参加は15年も続いているそうです。活発な奥様は、四国巡礼を2回もされたそうです(ご主人は1回との事)。

訪問した日は、大変な猛暑の日でしたが親切に対応いただきました。とても80歳代とは思えない若さ、仲の良いお二人、いつまでも体に気を配り、元気で農業に携わってほしいものです。

(大石委員)



(水間)

谷田

譲さん

(84)

千鶴子さん

ご夫妻

(78)

丹鉄東雲駅周辺の、普段静かな水間の里で、農業に勤しんでおられる谷田ご夫妻を紹介します。

水間地区は、丹鉄が集落の中央を二分し、更に府道神崎線に沿って長大な堤防が築堤され、内水側は主に水田や宅地、由良川側は畑地となっております。

譲さんは、三十数年余り兼業農家として、退職後は農業に専念されました。地区では、今日の農地の基礎となっている圃場整備の委員長として、長年に亘り尽力されるなど、農業一筋に歩んで来られました。

現在、谷田さんは45アールの稲作と、25アールの畑作を営んでおられますが、最近稲作はご子息が主力となり、楽させてもらっているとの事でした。

畑作はいつもお二人で、季節野菜を15種余り栽培され、JAの彩菜館に出荷されているそうです。中でも落花生は、栽培から製



品作り、出荷販売まで千鶴子さんの担当です。ご主人と云えども手出し無用と自負されておられました。

譲さんは、「この年齢で25アールの野菜作りは大変で、毎日疲れるし、特に今年の猛暑の水やりは身体に堪えた。でも、出荷す

る以上は、変な野菜は出せんし、ついでに入る。やはり野菜作りが好きで、身体を動かすのが健康の為でもあるし、一つには周辺でも耕作放棄地が増えつつある中で、何とか農地を荒らさない様に、頑張っている。そして、仕事の後の大好きな一杯の晩酌が明日の活力です。最近痛い所が増えているが、お互いに無理せず、労わり助け合っています。少しでも長く二人で農作業が出来たら幸せです。」とお話し頂きました。

穏やかな水間の里で、いつ迄もお二人がお元気に過ごされます様お祈りします。

(松本委員)



## 朝来中圃場整備

### 朝来中

朝来中は、舞鶴市の東部で、霊峰青葉山の麓に位置し、朝来小学校・朝来郵便局、近くには朝来幼稚園・国立舞鶴工業高等専門学校があります。

### 圃場整備の決定までの経緯

圃場は、朝来小学校の東側より登尾にかけて約12㍓あります。昭和36年に圃場の区画整備が実施され現在に至っております。給水は



圃場の中に積み上げられた基盤整備用の土砂

朝来川を堰き止め3か所より給水し、このため、毎年3月に井根立てを行い給排水路の掃除を実施しております。給排水路が経年劣化で傷み、圃場の中に湿田が増え不耕作地が多くなりました。平成7年と平成9年に圃場再整備の話が持ち上がるも立ち消え、平成15年に整備事業委員会を立ち上げ検討いたしました。が、圃場を所有している全員の賛成が得られず頓挫いたしました。その後も、圃場の軟弱基盤が原因で大型機械での耕作が困難となり、加えて高齢化・担い手不足から不耕作地が50%を超えるまでになりました。平成28年に朝来中農事組合で再度話が上がり圃場整備の先進地(水間地区・丸田地区)に圃場整備実現の経緯を確認に訪問しました。平成28年から平成30年にかけて有償にて圃場整備をすることで検討し、平成30年に農地中間管理機構を利用することで、ほぼ無償にて圃場整備が出来ることで話が進展し、朝来中圃場整備組合を立ち上げ、市役所農林課の協力のもと、農家の意向調査のアンケートを実施しました。農地所有者47名へアンケート

を配布回収し、同時に圃場整備実施の同意書の取得のため朝来在住の所有者は元より舞鶴市以外の所有者もあり近隣(京都市・長岡京市・福井県)は訪問し、遠い所の所有者へは手紙にて取得しました。農地の集約と集積の為、意向調査の結果を踏まえて、後継者が無く、今後農業が出来ないまたは継続の意思がない所有者に説明を行い、話を進めた結果圃場整備実施が決定しました。

### 圃場整備実施決定後の経過

決定後、市役所より圃場整備区画の案が提示されるも圃場の1区画大きさが50㍓と今までの10㍓区画と比較しても5倍と大きく、水管理の難しさを考え30㍓区画に変更し、その区画面に基づき事前換地を実施しました。事前換地では、所有者の元の圃場の場所を基本に実施し了承を得ました。それに基づいて工事完了後に本換地を行う予定です。

また取水では、井戸を掘る事で試掘致しましたが水が思ったほど



朝来中圃場整備区域

出ず、再検討の結果、貯水池を作り朝来川より取水し、圧送ポンプや配管を整備し、必要な時にバルブ操作で給水できるようになります。

農地は農地中間管理機構に貸与し(15年間)利用する農業者としては、朝来営農株式会社を設立頂き、今までどおり耕作いただく方は、朝来営農株式会社のもと営農いただく様になります。現在は圃場の基盤整備のための土砂を搬入いたして居るところです。

圃場整備が完成するのは、もう少し先になりますが、完成すると畑地(圃場整備前の割合で畑地を残す)にはハウスを建てて野菜栽培を、水田は、毎年苦痛の井根立て・水路清掃がなくなり1区画30㍓圃場に稲穂が実る光景が楽しめます。(大石委員)

舞鶴の農家住宅

## 大庄屋上野家

地域農業の情報収集、情報発信の拠点として古民家を活用



舞鶴市西方寺にある「大庄屋上野家」を紹介します。「大庄屋上野家」は、江戸時代後期から大庄屋を務めた上野家の住宅です。現在、建物群は舞鶴市の加佐地域農業農村活性化センターとして「心豊かに住み続けられる加佐づくり」を目標とした地域の活動拠点として活用されています。



母屋の前のお二人は、取材に協力していただいた、舞鶴市加佐地域農業農村活性化センターの竹原さんと仲野さん。

土間から増築された奥座敷(カミノマ)を見る



「大庄屋上野家」の造りは、母屋を中心に納屋、数棟の土蔵からなり、塀を巡らした立派な建築です。母屋は茅葺きで、棧瓦葺きの下屋庇が四周しています。元々の間取りは、土間にそって2室が2列に並ぶ「田の字型」でした。

以降、奥座敷など増築が加えられ、現在の造りになっています。建物は国登録文化財に指定されています。

「大庄屋上野家」は、平成15年に持ち主から舞鶴市に寄付され、保存・整備が地域のボランティアを中心に進められ、平成17年に加佐地域の交流拠点として活用が開始されました。平成27年からは現在の加佐地域農業農村活性化センターとして活用されています。農業・農村の活性化を進めるために、農業体験や農家民宿等の農村ビジネスの支援、移住希望者の相談・現地案内、加佐地域の様々な魅力発信を行っています。(尾上委員)

大庄屋上野家に関する問い合わせは、舞鶴市加佐地域農業活性化センター  
(TEL 0773-6018200)



土蔵は、Book Kuraとして、多くの書籍が並び、地域の子供を中心に、自由に利用できる場所として開放されています。

## 京都府立農業大学校 学生募集

京都府立農業大学校では、府内で農業に従事したい意欲ある学生を募集しています。

	一般入学試験(前期)	一般入学試験(後期)
願書受付期間	令和2年12月3日(木) ～12月16日(水)	令和3年1月28日(木) ～2月8日(月)
試験日	令和3年1月15日(金) 午前9時20分～	令和3年2月22日(月) 午前9時20分～
試験場所	京都府立農業大学校(綾部市位田町松前30)	

詳しくは、農業大学校へ  
直接お問い合わせ下さい。

電話

0773-48-0321

## 農業者年金

で安心、豊かな老後を！

農業者年金に  
加入しましょう

- 農業者なら広く加入OK
- 少子高齢時代に強い年金
- 税制上の優遇措置あり
- 保険料は自由に設定OK
- 農業の担い手には手厚い政策支援
- 終身年金で80歳まで保証



農業者年金の内容やご相談については、最寄りの農業委員会かJA  
または農業者年金基金(TEL:03-3502-3199)にお問い合わせください。

(農業者年金加入推進部長 霜尾委員)

### 事務局員紹介



水口 織田 松永 立山  
眞下農政係長 吉田事務局長

## 農地中間管理事業が使いやすくなりました！

京都府農地中間管理機構では、平成29年度から借受希望者としての登録が通年でいつでも応募いただけるように改めました。

併せて、一度応募いただければ、辞退されるまで継続可能となりました。

また、これまで10年以上での契約を原則としていましたが、農地の出し手・受け手双方から「短縮してほしい」との要望をいただき、地域の事情に応じて5年以上も可能となりました。

皆様のご応募をお待ちしております。

問合せ先 京都府農業会議 電話 075-417-6868

### 編集後記

■ 本年7月から新たに農地利用最適化推進委員の辞令を受け、広報委員となりました。身近なニュース等としてご投稿下さい。

■ 今年は台風や大雨などの天災もなく、加佐地域でもたくさんさんの収穫に恵まれたことに感謝しております。

■ 一方、今年は新型コロナウイルスの影響で日常生活にも色々と制約が生じており、ストレスも溜まりますが、市内の感染者も少ないことから、まだ生活しやすい方かなと感じております。

■ 広報委員一同、農業委員会だよりを通じて、情報の発信と話題の提供等に努めてまいりますので、ご支援をお願いいたします。

(淡路委員)

### ● 広報委員 ●

委員長 嵯峨根 秀 樹  
副委員長 松本 圭 司  
委員 淡路 辰 己  
委員 大石 昌 己  
委員 尾上 亮 介  
委員 櫻井 昭 秀